

令和元年度 厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業)
認知症の人やその家族の視点を重視した認知症高齢者にやさしい薬物療法のための研究

分担研究報告書

処方箋調剤薬局の抗認知症薬処方例の処方内容の解析

研究分担者 鈴木 裕介 名古屋大学医学部附属病院 地域連携・患者相談センター

研究要旨

本年度の研究においては、処方箋調剤薬局の処方実態および特に慎重を要する薬剤処方(PIMs)と関連する要因の分析を、抗認知症薬処方例に焦点を当てて行うことにより、高齢者における抗認知症薬の処方実態とPIMsとの関連について考察を試みた。高齢者における抗認知症薬の処方率は全体の4.4%であった。前回の解析で確認されたPIMsと関連性の高い中枢神経用薬処方とPIMsリスクとの関連は抗認知症薬処方群においてより低く、抗認知症薬別の解析では、PIMs処方リスクはコリンエステラーゼ阻害薬単剤を参照とした場合、メマンチン単剤処方群で有意に高く、両剤の併用群では若干低下する傾向がうかがわれた。本研究においては高齢者における認知症の推定有病率と比較して抗認知症薬が顕著なUnderuseである現状、抗認知症薬の使用、特に併用することによりPIMsの処方リスクが軽減できる可能性が示唆された。

A. 研究目的

昨年度の研究において高齢者の処方実態とPIMsリスクとにおいては年齢ではなく、性別(女性)、多剤併用が有意に関連していることを確認した。本年度の研究においては、地域在住高齢者における認知症薬物療法の処方実態とPIMsとの関連性の把握を目的に処方箋調剤薬局の高齢者に対する処方箋のうち、抗認知症薬が処方されているケースの解析を行った。

B. 研究方法

2014年10月の一か月間に全国585か所の処方箋調剤薬局において65歳以上のすべての患者(180,673名)を対象に、患者の年

齢、性別、処方薬剤数、薬効別分類に関するデータを収集した。全体のうち、抗認知症薬が処方されていた高齢者(7,953名)の群について抗認知症薬の有無による薬効別のPIMsリスクおよび抗認知症薬の療法別(コリンエステラーゼ阻害薬単剤/メマンチン単剤/両剤の併用)との関連性についてロジスティック回帰分析を用いて検討を行った。

(倫理面への配慮)

対象となる高齢者に対しては研究の主旨を説明した上で同意を取得し、個人のデータは匿名化をおこない守秘義務に対する配慮をした。

C. 研究結果

抗認知症薬が処方されていたのは7,953名(4.4%)、種類別の内訳はdonepezil(52.7%), memantine(28.0%), galantamine(10.8%), rivastigmine(8.4%), 2剤併用は全体の13.3%であった。「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015」に基づいた特に慎重を要する薬剤をPotentially Inappropriate Medications: PIMsと解釈した場合、薬効別では中枢神経用薬の関与が最も大きいことを前年の検討において確認しているが、中枢神経用薬処方群におけるPIMsリスクを抗認知症薬処方の有無別に解析したところ、抗認知症薬の処方によりPIMs処方リスクは顕著に低下する(Exp(B): 17.063→4.569)ことが確認された。抗認知症薬別ではコリンエステラーゼ阻害薬(ChEI)単剤を参照とした場合、PIMsリスクはmemantine単剤処方では有意に上昇する(Exp(B):1.423)が、ChEIとの併用によりリスクは軽減(Exp(B):0.979)されることが示された。

D. 考察

本研究の結果より、改めて実臨床における抗認知症薬の過小使用(認知症の推定有病率を考慮した場合)の実態が明らかになった。この背景には実地臨床における認知症の過小診断があるか否かは本研究の結果からは推定の域を出るものではない。PIMsを目的変数として年齢、性別、処方数で調整した回帰分析においてPIMsとの関連が最も大きい中枢神経用薬のオッズ比は抗認知症薬処方群において顕著に低いことが確認された今回の結果については、抗認知症薬の使用が薬効として他の中枢神経用薬使用によるPIMsリスクを抑制する 過小診断

／過小処方の傾向が認められる抗認知症薬を処方する処方医のPIMsに対するリスク意識などの要因が推察されるが、抗認知症薬の使用頻度は認知症の進行とともに低下するという過去の知見もあり、認知症の進行にともない抗認知症薬が中止されるとともに心理行動症状(BPSD)に対する中枢神経用薬の使用がPIMs処方リスクを高めている可能性も示唆される。抗認知症薬薬効別の解析においては、併用療法がPIMsリスクを軽減する可能性を示唆する結果も得られており、高齢者臨床の現場における認知症の適切な診断と処方薬適用の必要性が示唆される結果を得たと考える。

E. 結論

高齢者における中枢神経用薬の処方によるPIMsリスクは抗認知症薬の処方により軽減される可能性が示唆された。認知症に対する適切な診断と処方を行っている処方医においてはPIMsに該当する薬剤の処方リスクが低くなる可能性、が考えられる反面、抗認知症薬の過小使用がBPSDに対するPIMs該当薬剤の使用リスクを高める可能性も示唆された。

F. 健康危険情報

本研究に関しては健康の危険に関する情報は無い

G. 研究発表

1. 論文発表

末松三奈、若林唯、高橋徳幸、岡崎研太郎、半谷眞七子、淵田英津子、阿部恵子、鈴木裕介、葛谷雅文(原著) 認知症医療・介

護における多職種連携に対する意識 - 日本とスコットランドの看護師の語りによる質的分析 - 別刷 地域ケアリング 20 (2): 67-71, 2020

Hirano A, Suzuki Y, Umegaki H. et al. Relationship between blood coagulability and sense of burden among caregivers of patients with dementia. Geriatr Gerontol Int Jul 28. doi: 10.1111/ggi.13721. [Epub ahead of print] 2019

Umegaki H, Yanagawa M, Komiya H, Suzuki Y et al. Polypharmacy and gait speed in individuals with mild cognitive impairment Geriatr Gerontol Int May 20. doi: 10.1111/ggi.13688. 2019

2. 学会発表

Suzuki Y, Tsuji N, Komiya H et al. Transition from hospital to home, the Nagoya experience Fill the Gaps: Help the patients go home from Hospital- Experiences from Japan, Philippines, and Taiwan 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 25th Oct. Taipei, Taiwan 2019

Suzuki Y Discharge Plan from Acute Care to Long-Term Care Service -Identified agenda for implementation of community-based long-term care- International Conference on Discharge Plan from Acute to Long-term Care 14 June

Kaohsiung, Taiwan 2019

鈴木裕介 高齢者の薬物療法 - その現状と地域における課題 - 日本内科学会東海地方会 第28回東海支部教育セミナー 2019年10月6日 岐阜

鈴木裕介 認知症ケアにおける職種間連携の課題 日本老年薬学会合同シンポジウム 第10回日本脳血管・認知症学会総会 2019年8月3日 東京

鈴木裕介 高齢者の安全な薬物療法 日本老年医学会東海支部主催 第3回老年医学研修会 2019年5月11日 名古屋

鈴木裕介, 辻典子, 榊原幹夫, 白石成明, 葛谷雅文 在宅高齢者の薬物療法の現状分析 -高齢者に対して特に慎重な投与を必要とする薬物と関連する因子の検討- 第1回日本在宅医療連合学会大会 2019年7月15日 東京

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし